

執筆紹介

飯沼 健子 本学経済学部教授
中村 尚司 龍谷大学名誉教授
高橋 義博 本学経済学部教授
稲田 十一 本学経済学部教授
徐 一睿 本学経済学部准教授

宮寄 晃臣 本学経済学部教授
石川 和男 本学商学部教授
樋口 博美 本学人間科学部教授
飯田 謙一 本研究所研究参与
池本 正純 本研究所研究参与

〈編集後記〉

本号は、専修大学社会科学研究所 2018 年度春季実態調査（スリランカ）の成果をまとめた特集号である。冒頭に調査行程記録、そして本号前半ではテーマ別の論稿を、後半では個別の調査訪問に基づいた論稿を掲載し、更に紀行文まで揃った複合的な特集号となった。

テーマ別の論稿としては、本調査直後に起きたテロの背景理解につながる中村論文、スリランカ経済の総合的な理解に役立つ高橋論文、中国「一带一路」のスリランカへの影響を論じた稲田論文、スリランカの港湾整備を債務の視点から捉えた徐論文と、いずれもスリランカにおける重要分野の最新動向を分析したものである。

個別の訪問先に焦点を当てた分析では、多様に海外と関わりあってきたスリランカの経済活動を理解できる論稿が並んだ。紅茶産業にみる植民地主義を論じた宮寄論文、アパレル企業が女性のエンパワーメントに取り組んだ事例を扱った飯沼論文、日本企業として最も早くからスリランカで事業を展開してきたノリタケに関する石川論文、同じく日本からの投資であるが造船業部門の尾道造船を取り上げた樋口論文、日本の中小企業投資として視覚障がい者のための社会的企業を取り上げた飯田論文である。最後に今回の渡航をリーダーな紀行文にまとめた池本参与のエッセイを掲載した。

各所員・参与の専門分野と関心を基に執筆された論稿が集まり、スリランカを様々な側面から理解できる号となった。本研究所の実態調査としては最長かつインテンシブであったが、安全かつ充実した調査を行えたのは、ご尽力下さったパルシックの皆様、現地で受け入れて下さった多くの方々、そして参加者のご協力のお蔭に他ならない。ここに心より謝意を表したい。

(飯沼健子)

2019 年 10 月 20 日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 宮 寄 晃 臣

製 作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前 2-10-2 電話 (03)3404-2561
